様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月 １６ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１２５９９

研究課題名（和文）中国都市部における産育文化の変容と受容 ー家政サービス員を中心にー

研究課題名（英文）Transformation and Acceptance of Birth and Child-Rearing Culture in Urban Areas of China - Focusing on Domestic Service Workers

研究代表者
翁　文静（weng, wenjing）

九州大学・アドミッションセンター・准教授

研究者番号：８０７８００７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中国の産後の養生習俗である「月子」を取り上げ、「月子」の専門家である「月嫂」の実践の分析を通して、「月子」の変容と再構築の一端を探るものである。本研究はまず、「科学月子」の表象や言説を分析し、「科学月子」と伝統的な「月子」習俗との違いを明らかにした。次に、実践コミュニティという概念を用いて、「月嫂」を養成するトレーニングセンター、研修病院、「月嫂」の職場における産育実践の形成と遂行を明らかにした。最後に、「月子」の変容を資格化、医療化、早期教育化、商業化および伝統の創出という５つの特徴に分けて考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
まず、産後養生という産育期間への着眼点の重要性が上げられる。近年の人類学的研究では出産の医療化が注目されていますが、産後のケアについてはまだ研究が少ない状況です。また、女性の健康や育児に関連する問題が増えており、この研究は産後のケアの重要性と人々との関わりの再認識を促している。さらに、中国の「月嫂」という特殊な育児専門家の活動を通じて、新しい協働関係や育児の可能性を提案している。核家族化が進む現代社会において、家族や地域との関係性に注目が集まっている。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on the postpartum care tradition in China known as "yuezi" and aims to explore a part of the transformation and reconstruction of this tradition through the analysis of the practices of "yue sao" or postpartum caregivers, who are experts in this tradition. The study begins by analyzing the representation and discourse of "scientific yue zi" to clarify the differences between this modern representation and the traditional "yue zi" practice. Next, using the concept of a practice community, it elucidates the formation and implementation of postpartum care practices in the training centers for "yue sao," training hospitals, and their workplaces. Finally, the study examines the transformation of "yue zi" into a qualified, medicalized, early educational, commercialized, and newly created tradition, categorizing these changes into five distinct characteristics for discussion.

研究分野：文化人類学および民俗学

キーワード：家政サービス員　月嫂　文化の変容と受容　中国の都市部　産後ケア　月子

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

近年、文化人類学、民俗学、福祉学、医学などの視点に立った出産・育児研究が盛んに行われている。これらの出産・育児研究では、出産・育児のみならず、各国の伝統的な産後の養生習慣についても言及されている。

産後の養生習慣への注目の背景として、まず、現代社会が出産前後の女性の心身や子育てをめぐる様々な困難や問題に直面するなかで、あらためてかつての産後養生習俗の意義や役割を見直そうとする学術的、社会的な関心の高まりがあると思われる。多くの先進国では産婦をめぐるマタニティー・ブルーズ、産後鬱などの問題、そして、それに起因する育児孤立や育児放棄、乳幼児の虐待などの問題が数多く報告されている。日本においても、産後１か月間の母子の心配事を調査した研究があり、その結果、産婦の 67%が睡眠不足で疲労感、25%が乳房トラブル、15%が育児放棄感や自信喪失感を経験していたこと、また、新生児の皮膚 35%、母乳哺育 34%、新生児の不眠が 24%あるということがわかった（島田 ほか 2006）。

そして、産後の養生習慣とその習慣に関わる人々への着目は、産後期間の重要さ、そして、人びとの関わりの大切さを再認識させることにつながると考える。

また、小浜・松岡（2009）が指摘したとおり、各社会で育まれてきた伝統的な結晶とも言える産後の養生習慣は、近代化しつつある出産のなかでも、最も伝統が色濃く残る局面である。しかし、このような産後の養生習慣は、現代社会において、廃れる場合もあれば、姿を変えながら、受け継がれている場合もある。このように、産後の養生習慣への注目は、産育をめぐる文化研究においても興味深いテーマを提供できると思われる。

２．研究の目的

本研究では主に中国上海市における出産、育児に関わる家政サービス員（産後養生を担う「月嫂」yuesao、育児を担う「育児嫂」yuersao を含む）を取り上げ、彼女たちの行う産育実践を描くことを通して、中国都市部における新しい産育文化の形成、創造の過程の一端の解明および、そこでの「月嫂」と「育児嫂」の果たす役割を解明することを目的とする。

具体的にまず、マクロレベルとして、国家・行政による産育政策、産育の市場化などを把握し、産育文化の変容を明らかにする（目的 1)。次にメゾレベルにおける家政サービス員の産育実践（養成過程）を取り上げ、医療・教育関係者、家政サービス員の交渉を描くことにより、家政サービス員が産育変容に対する受容・抵抗の様子を描く(目的 2) 。ミクロレベルである各家庭における家政サービス員の産育実践に焦点を当て、雇用主らの産育政策や産育法に対する受容・抵抗などの様相を描く(目的 3)。

３．研究の方法

（１）文献収集

中国都市部における産育政策、産育の市場化の動向に関する資料・情報を収集し、マクロレベルにおける産育文化の変容を把握した。また、人類学における文化変容論、実践理論、社会学におけるマクロ、メゾ、ミクロという三つのレベルに関する文献研究を行い、分析枠組みの洗練を行った。

（２）参与観察

まず、「月嫂」および「育児嫂」を養成するトレーニングセンターでの養成訓練に参加し、その後、月嫂の病院研修にも参加した。また、数年かけて断続的に月子センター[1]や雇用者宅で「月嫂」や「育児嫂」と雇用者らに対して参与観察を行なった。

（３）SNS によるインタビュー調査

「月嫂」を雇用したことのある 30 代の雇用者 7 名に対して中国の SNS である Wechat による半構造インタビュー調査を行なった。調査の項目は①家族構成、雇用実態、②「月嫂」はどのようなサービスを提供するのか、③「月嫂」の提供するサービスに賛成するか否か、④どのようなところを賛成するか、「月嫂」から何を学んだか、⑤雇用者と「月嫂」の間に、不一致が生じた場合、どのように解決したか（シニア世代と若い世代の違いにも着目する）と設定している。

４．研究成果

ここでは「月嫂」を中心に成果をまとめる。

（１）国家政策の把握(マクロレベル)

1996 年から、中国政府が「月嫂」の職業化と資格化を進めるため、職業規範や職業基準を公表した。しかし、各地域では独自の規範や基準が設けられ、「月嫂」の養成訓練が行われている。上海市では、1980 年代後半には病院での「月嫂」の養成と資格授与が行われ、1990 年代後半にはトレーニングセンターへ移行し、そして 2000 年以後は市の統一試験と市レベル資格へと格上げされてきている。このような「月嫂」の資格に関する変化は、二つの特徴がある。まず、これまで不問とされてきた産後養生習慣である「月子」に対して、市や国家の関与が強まっていることである。それには人口政策の一環として「科学」育児や、早期教育など、特に新生児の養育・

教育に重点を置いていることが影響していると考えられる。二つ目の特徴は、「月嫂」の職業化と資格化の始まりから現在まで、病院が深く関わっていることである。病院が「月嫂」に研修と仕事の場を提供し続ける理由には、看護師の不足や、病院で行われる科学的な産育法を「月嫂」を通して、産婦とその家族へと伝える必要性が含まれている。

（２）家政サービス員の養成実態の記述(メゾレベル)

上海市の最大のトレーニングセンターでは、「月嫂」の養成訓練が行われている。この訓練は、155 時間の座学と実技（必須）、2 日間の「催乳師」（選択）、2 日間の「月子料理栄養士」（選択）、3 日間の病院研修（選択）で構成されている。

155 時間の養成訓練では、座学と実技の繰り返しが行われる[2]。多くの生徒が積極的に訓練内容を受け入れている。例えば、講義中には、生徒が携帯電話で講義内容を録音したり、板書を撮影したりする光景がよく見られた。さらに、実技の部分でも生徒たちは積極的に学びを吸収しようとしており、講師の実技を真剣に観察したり、グループで実技を練習したり、携帯で実技の動画アプリを見たりする姿が頻繁に見られた。

「催乳師」訓練では、トレーニングセンターの職員が病院の医師や助産師などを講師として招く。筆者が受けた「催乳師」訓練では、某病院の助産師が講師を務めた。講義では、パソコンと配布資料を使用し、①「催乳師」の定義、②母乳育児の理由、③母乳育児の方法、④乳房トラブル、⑤トラブルの諸解消法などが講演された。これらの内容は西医、特に産婦人科に関するものが多かった。二日目は主にマッサージの手法、ツボの確認、トラブル別のマッサージ方法の座学と実技が行われた。これらの内容は主に「中医」に基づいている。

「月子料理栄養士」訓練では、上海市で有名な月子料理会社 G 社[3]から栄養士と料理人がトレーニングセンターに派遣された。訓練は二日間で行われ、初日には G 社の栄養士がパソコンを使用して会社の基本情報や月子料理の必要性、食事内容などを紹介した。その後、栄養士と料理人が生徒に G 社の商品を使った料理の作り方を実演した。翌日の午前中には、G 社の栄養士が教材を使って腹帯の巻き方を実演した。午後には、生徒たちは筆記試験と料理および腹帯の実技試験を受け、合格者は G 社からの合格証明書を受け取った。

「月嫂」を目指す女性たちは、トレーニングセンターでの養成訓練を終えると、具体的な現場である病院で研修を行う。ここでは医療行為だけでなく、産婦や新生児の日常的な世話も行われます。さらに、伝統的な育児習慣に関する葛藤や交渉場面にも遭遇します。研修を通して、彼女たちは病院での医療行為を学び、トレーニングセンターで学んだ理論的な知識や技術を現場の状況に適応させる方法を身につけ、伝統的な育児習慣に関する葛藤や交渉場面に対処する能力も磨いていく。

（３）家政サービス員の実践と雇用主による受容の実態(ミクロレベル)

病院、「月子」センター、雇用者宅という三種類の勤務先における「月嫂」の実践注目した。職場は異なるが、「月嫂」の実践は大きく衣、食、住、清潔及び医療に大別することができた。衣に関しては、たとえば、蝋燭包とオムツ交換が挙げられる。食に関しては大きく母乳、ミルク、そして月子料理に分けられる。住はベビーベッドなど乳幼児が寝る空間を指す。清潔はシャンプー、沐浴と新生児マッサージを含む。最後の医療実践は新生児に対するものと産婦に対するものに分けることができる。新生児に対する産育実践は臍処置、黄疸の観察、薬の投与を含む。産婦に対する産育実践は主に会陰の観察と消毒を指す。

一方、雇用主が「月嫂」の実践を受け入れる局面に関しては、以下の点が明らかになった。雇用者全員が「月嫂」に満足または概ね満足しており、特に新生児のケアに関する実践が最も受け入れられていることがわかった。しかし、シニア世代の雇用者の中には、月嫂との摩擦や葛藤が多いことも明らかになった。このような場合、「月嫂」は様々な戦略（主導権の発揮、専門性の誇示、わざの提示や教示など）を用いて、自らの「科学的な月子」を推し進めた。

（４）「科学月子」の創造と「月嫂」の役割

「科学月子」の形成を「月子」の資格化、医療化、産業化、「早期教育」化、および「科学月子」における伝統の再創出という五つの特徴において検討した。また、「科学月子」の形成の主要なアクターである「月嫂」の果たす役割について医療化、商業化の促進、伝統の継承と新たな創出、世代間の仲介者としての役割の 3 つの視点に分けて考察を行なった。

本研究では、中国都市部における「科学月子」文化の形成過程、および、「月嫂」の果たす役割を明らかにした。育児に関わる育嬰員、養老護理員の職業化・資格化によって、中国における育児文化、養児防老の文化はどのように変わりうるのか、育嬰員、養老護理員はどのような役割を果たしているのか。このような課題については、今後の研究の中で改めて検討することにしたい。

注

1．「月子」は「坐月子」、「作月子」「做月子」とも書き、中国で広くみられる一種の産後養生の習俗であり、産後一ヶ月の間、産婦が起居飲食において守らなければならない一連の規範と禁忌のことである。一般的に「月子」の規範とは、一日 6 回の食事と大量のスープの摂取、（授乳、食事以外の）ベッドでの安静のことを含む。一方、「月子」の禁忌は歯磨き、沐浴、水道水の使用、外出の禁止などがある。産婦がこの一連の規範と禁忌を守らなければいけない理由は、この時期は病気になりやすい時期で、しかも病気にかかると、一生治らないという言い伝えがあるからだ（姚 2009;張 2007）。また、「月子」センターとはこれまでのように自宅で月子の期間を過ご

すのではなく、設備が整った施設で医者、看護婦、栄養士、「月嫂」の助けを受けながら月子を過ごすことである。
2.座学と実技の教科書を用いられる。座学の教科書は「第１章　妊娠期ケア、第２章　分娩期ケア、第３章　産褥期ケア、第４章　哺乳期ケア、第５章　発達と早期教育、第６章　小児生活ケア、第７章　栄養と食事、第８章　新生児疾患、第９章　嬰児疾患、第 10 章　事故防止・予防」から構成されている。また、実技の教科書は妊産婦ケア、新生児ケア、栄養と病気予防、発達という 4 章に分かれ、合計 30 の実技がある。
3．台湾の企業である G 社は、月子料理に注力し、科学的な段階式の「月子」料理を開発し、中国の都市部で人気を博している。段階式の「月子」料理は、伝統的な中国の月子料理の油物中心のスタイルとは異なり、1 か月を 4 週に分け、それぞれの週に産婦の身体的・精神的状況に合わせた異なる食事を提供する料理である。

参考文献
小浜正子・松岡悦子 2009「変わるアジアの出産」『アジアの出産―リプロダクションから見る文化と社会』勉誠出版
島田三恵子,杉本充弘,縣俊彦 他「産後 1 か月間の母子の心配事と子育て支援のニーズおよび育児環境に関する全国調査--「健やか親子 21」5 年後の初経産別,職業の有無による比較検討」『小児保健研究』第 65 巻 第 6 号，2006　pp　(752 一一 762)
張宏潔 2007「北京市‘月嫂”従業状況的研究」『中国医療前沿』2（22）112-114
姚毅 2009「産後の養成坐月子―中国」『アジアの出産―リプロダクションから見る文化と社会』勉誠出版

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 翁文静	４．巻 35
２．論文標題 中国都市部におけるケア文化の変容-月嫂と医療養老護理員を中心に-	５．発行年 2020年
３．雑誌名 比較家族史研究	６．最初と最後の頁 73 97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 翁文静
２．発表標題 中国都市部における家事・ケア労働者に関する文献レビュー―資格化・職業化を中心に―
３．学会等名 比較家族史学会第69回秋季研究大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 翁文静
２．発表標題 雇用者による家事・ケア労働者のケア実践の受容　－中国都市部を中心に－
３．学会等名 日本家族社会学会第30回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 翁文静
２．発表標題 家事・ケア労働者による産育実践とその受容－中国上海市を事例に－
３．学会等名 日本家族社会学会第29回大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 翁文静
２．発表標題 中国都市部におけるケア文化の変容と受容－上海市の家事・ケア労働者を中心に－
３．学会等名 「高齢化する中日社会における家族の変化と社会的支援」国際学術シンポジウム（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

１．著者名 張季風	４．発行年 2021年
２．出版社 社会科学文献出版社	５．総ページ数 332
３．書名 A SOCIETY WITH LOW BIRTHRATES AND AN AGING POPULATION -A Comparison of Policies and Practices in China and Japan	

１．著者名 翁文静	４．発行年 2023年
２．出版社 九州大学出版会	５．総ページ数 188
３．書名 中国産後ケア文化の変容 産業化する伝統文化とその担い手たち	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関